

八幡神社について

八幡神社は全国で稲荷神社の次に多いといわれ、その本源は大分県の宇佐（うさ）八幡宮である。大分では銅を産出していたことから、鍛冶職集団の氏神とされ、奈良時代に大仏建立の際中央に進出し、平安時代に祭神が応神天皇と結び付けられた。中世には源氏が氏神としたため、以後武家の守り神として栄えることになる。

中央区のうち旧葺合区（小野の他、旧葺合区域では筒井、熊内、中村、南宮宇佐の八幡社がある）と灘・東灘区にかけては八幡神社が多く祀られているが、これは祭神が応神天皇であり、神戸の伝説にしばしば登場する神功皇后がその母であることと何か関係があるのだろうか。